



「おもてなし x モビリティ」  
北海道十勝と世界を繋ぐホテルヌプカの取組みが  
「移動革命」に期待すること

2020年1月28日

十勝シティデザイン株式会社 / HOTEL NUPKA

1

 HOTEL NUPKA



- 2016年3月、北海道帯広市の中心市街地で開業
- 米国ポートランド市(オレゴン州)のACE HOTELから着想を得た事業企画
- ホテル/カフェ/イベント開催を柱として旅人と地元の人が集まり/出会いが生まれる場となる
- 経済産業省の中心市街地再生事業補助金の支援を受ける
- 2019年4月から馬車BARの運行を開始

2

Q：ホテルの役割・できること？

Q：ホテルの役割・できること？

1. 宿泊用の客室を提供して、宿泊料を受け取ること
2. ローカルフードを楽しめる食体験の場となること
3. 地域を旅する拠点としてのコンシェルジュ機能
4. 旅行者と地元の人が出会い・交流するコミュニティ拠点となること
5. 新しい街づくりを主導し、中心市街地の空洞化などの地域課題に取り組むこと

3

4

## <ホテルアーバニズム>

都市の都市たる所以は、多種多様なアイデアが集積し、あるきっかけの下に柔軟に交わり、相互作用が生まれる場と機会の創出にある。そこで生まれた新しい価値が経済を刺激し、都市を持続的に活性化させる。すなわちアイデアの集まらない都市は消滅する。

一方ホテルとは、まちの居間であり、多種多様な人びとが交差する都市の触媒機能を果たしている。したがって、**ホテルと都市は機能を共有しており、相似形をなしているといえる。**

ホテルが人びとやアイデアを惹き付け、相互作用を育めば、ホテルが賑わうことになり、それによりまちが賑わうことになり、まちに活力がもたらされることになる。

by 吹田良平氏 (2015年)

5

## 十勝シティデザイン & ホテルヌブカの取組

6

### 北海道十勝地方



- \* 帯広市 (17万人) が中核都市
- \* 東京から飛行機で1時間30分
- \* 地域人口約35万人
- \* 日高山脈&十勝平野
- \* 大規模農業/酪農が発展
- \* 食料自給率1200%
- \* 冬の晴天率高い (十勝晴れ)

7



8



## 2013年

- 東京在住の十勝出身者グループによる自主制作の短編映画
- クラウドファンディング(2013年)で200万円以上の資金を獲得
- 2015年4月に完成し、YouTubeで世界配信開始
- 札幌国際短編映画祭2015で北海道監督賞を受賞
- 日本とアジアを結ぶ国際線での機上上映が実現
- 2016年に冬の十勝を舞台とする「my little guidebook-ice」を発表

マイ・リトル・ガイドブック  
my little guidebook



9

## HOTEL NUPKA

## 2016年



- 映画自主制作メンバーの柏尾哲哉、坂口琴美が共同で事業開始
- 米国ポートランド市(オレゴン州)のACE HOTELから着想を得て事業企画を開始
- 帯広市中心市街地活性化協議会の認定事業、経済産業省の中心市街地再生事業補助金の支援を受ける
- ホテル/カフェ/イベント開催を柱として旅人と地元の人が集まり/出会いが生まれる場となる

10

TABI BEER  
旅のはじまりのビール

## 2016年



- ホテルヌプカの開業(2016/3)に合わせホテルを訪れるゲストに提供するオリジナルクラフトビールの開発
- 士幌町岡田牧場で収穫された十勝産大麦100%麦芽を原材料にし、ドイツビール純粹令に則った製法で醸造を行う
- 大麦の甘みを感じるフルーティーなピルスナータイプのビール、女性層にも人気が広がる
- フードアクションニッポンアワード2016で入選10品に選ばれる

11



## 2018年

- 街全体を一つの宿にみたく「まちやど」型事業を促進する「日本まちやど協会」に参画
- 食の大地北海道十勝の中心に位置する帯広街なか全体を食の体験地とする構想
- 近隣のビルの1室にホテルヌプカの2ndラウンジ「ヌプカ オンナイ」を作り、ホテル建物の外に向けた場づくりの取り組みを開始
- 今後、サテライト型ホテルの展開を目指していく構想



12



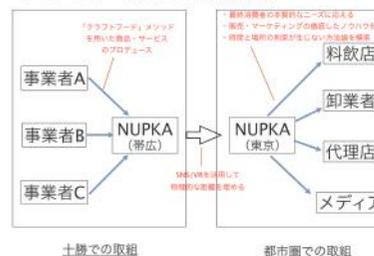
## 2019年



- 2019年4月より、帯広の夜の街なかを鞍馬ムサシコマが曳く馬車で巡る「馬車BAR」ツアーの運行を開始。
- 馬車は高級感あるBAR仕様、車内または2階席にて旅のはじまりのビールやローカルフードなどを楽しめる。
- 世界で唯一「ばんえい競馬」が開催される十勝だから開催できるプレミアムツアー。
- 運行を継続・拡大することで馬と人が共存する新しいコミュニティ作りに繋げていく構想

13

## コミュニティ・ホテル型地域商社事業



十勝での取組

都市圏での取組



## 2019年～

- 2018年までにホテル&飲食事業の収支安定化を成し遂げる
- 次の構想として「地域商社事業」(十勝の地域資源を全国・全世界に発信・販売する)に着手
- 十勝財団のアーリーステージ事業者支援助成金を獲得
- ららぽーと柏の葉様/北海道くらし百貨店様からの委託に基づき「ららぽーと柏の葉」にて「十勝旅のはじまりフェア」を企画・運営
- 「十勝デジタルサーカス」「十勝VR体験展示」「十勝ファーマーズマーケット」の3企画を展開

14

短編映画



リノベホテル



クラフトビール



まちやど



馬車BAR



地域商社



?????

15

中心市街地の活性化を  
地域全体の課題解決に繋げる

16

## 地方都市が抱える3つの人口問題

### 1. 少子高齢化

「国全体」の人口減少 + 高齢化

### 2. 東京 & 札幌一極集中

「地方」から「都市」への人口移転

### 3. 中心市街地の空洞化

「中心市街地」から「郊外」への人口移転

17

## 中心市街地空洞化の課題認識 - 1

### 1. 従来型商店街に対する救済策ではない

2. 郊外へ拡散した居住機能・商業機能・公共施設を全て中心市街地に戻すことはできない

3. 自動車を利用する郊外生活者に利便性の放棄を求めることはできない

18

## 中心市街地空洞化の課題認識 - 2

1. 「全国・全世界」から地域を訪れる人たちが最初に目にする「入り口」& 「滞在拠点」

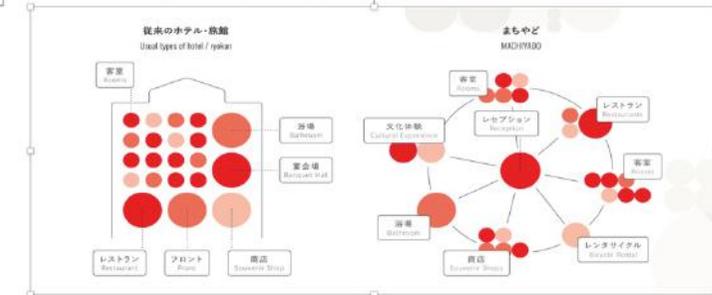
2. 魅力的な「まちやど」を作り、多様な人材が訪れ、滞在し、居住し始める

3. 「クリエイティブ人材」が地域資源を事業化し、地域外からの外貨を稼ぎ出す

4. 中心市街地で「働く人」「暮らす人」が増え、商業・サービス業の需要増加、正のスパイラルが生まれる

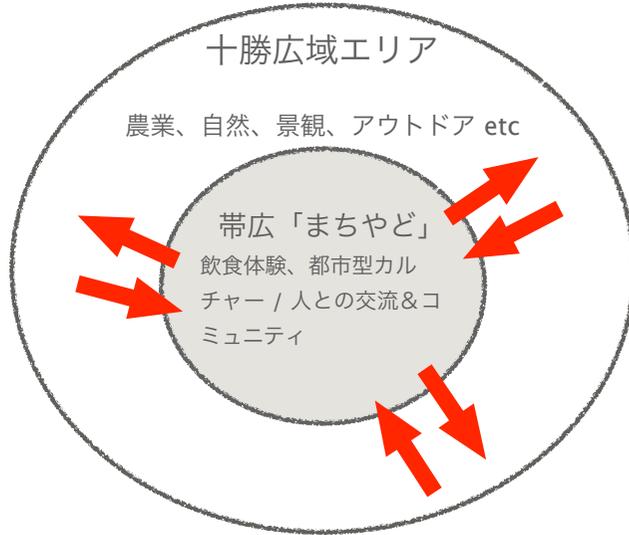
19

## 「まちやど」 = 街全体を一つの滞在空間とみだてる



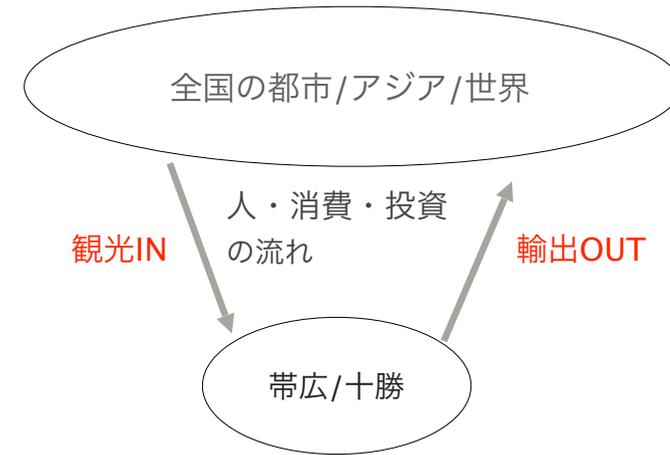
20

帯広「まちやど」を拠点に  
十勝エリアを全体を満喫する！



21

地域内での取組 → 全国/アジア/世界に舞台を拡大



22

22

### 帯広中心市街地の強み / ユニークな展開

1. 「フードバレーとかち」(2010年)の豊かな経済基盤
2. 「北の屋台」(2001年)を起点に発展する「ナイトタイムエコノミー」の賑わい
3. ホテルヌプカ(2016)が主導する「コミュニティ拠点型ホテル」の広がり
4. 「馬車BAR」が目指す「馬と人が共生する街の風景」
5. 事業創発拠点「LAND」 / ホテルヌプカが目指す「事業インキュベーション街」のあり方

23

「魅力的で活気のある街を作る秘訣は、補助金や優遇税制措置を使って企業誘致に励むのではなく、多様な人材を惹きつけ、真の繁栄を担う可能性がある人材環境を構築することだ」

リチャード・フロリダ著「新 クリエイティブ資本論」より

24

## ホテルヌプカの「事業インキュベーション実績」

1	旅のはじまりのビール - 2016年 -	本庄啓介氏
2	馬車BAR - 2019年 -	永田剛氏
3	デジタルサーカス - 2019年 -	岡本和之氏
4	観光VRソリューション - 2019年 -	大津岳広氏
5	「湯・リモート」型ラウンジ - 2020年 -	後藤ファミリー



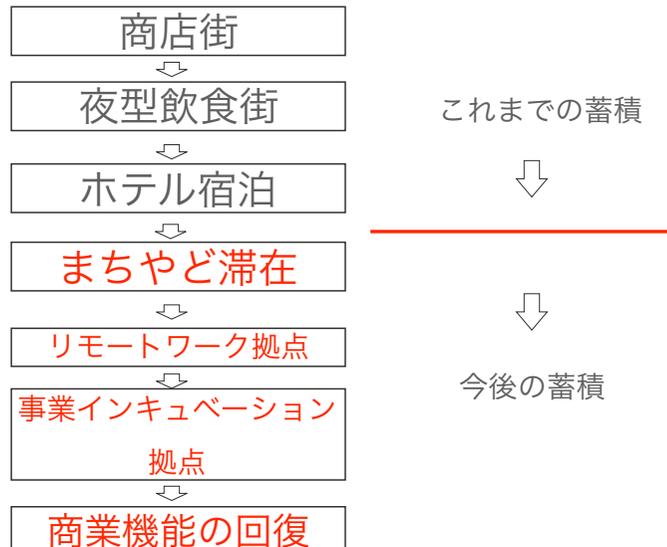
ホテルから生まれたクリエイティブ人材との接点を活かす

25

## 「馬車BAR」事業のケーススタディ (事業インキュベーション事例として)



26



27

北海道十勝と世界を繋ぐホテルヌプカ  
の取組みが「移動革命」に期待すること

28

## 「移動の本質」をどうとらえるか？

消費型（1度きり）観光滞在ではなく、継続的な関係人口（移住者、多拠点居住者、リモートワーカー）増加に繋げていく



- ホテルヌプカ
- 中心市街地 & まちやど
- 食と観光
- 事業範囲の広がり（観光に限られない）
- 集客と事業性
- 人材の確保

29

## チャンスと課題

## 解決の方向性

- |   |   |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. Sight Seeing からローカル体験</li><li>2. 移動距離が長い / 時間の有効活用</li><li>3. 観光資源等が点在 / 小規模事業者機会</li><li>4. 公共交通でカバーしきれない / 移動コストのUP</li><li>5. 世界からの訪問者を受け入れる</li><li>6. 天候により体験価値が左右される</li><li>7. 冬季間の移動（雪道運転など）</li></ol> | <ol style="list-style-type: none"><li>1. Food &amp; Activityの強みを活かす</li><li>2. 移動を楽しく / 仕事もできる</li><li>3. ガイド &amp; コンシェルジュ機能を充実させる</li><li>4. シェアド・エコノミーによるコスト負担の低減</li><li>5. 多言語対応 / Visual Interface</li><li>6. 移動体験の可変性と目的地の組み合わせの最適化</li><li>7. 冬対応の自動運転、人による移動サービス事業の自律性</li></ol> |
|---|---|

30

## 今後に向けて

1. 深度のある課題認識 / 新しい暮らし方・働き方とリンク
2. 柔軟な発想で課題解決 / テクノロジーだけが解決策ではない
3. 関連するプレイヤーが協働し、知恵を出し、実行する
4. 民間事業者が主導する取組みを行政・政治が後押し
5. 価値の創造 → 収益性はそれを反映するもの（短期で儲かりそうなことをする、ではなく）

31

## お問い合わせ等

十勝シティデザイン株式会社 / HOTEL NUPKA

Address: 北海道帯広市西2条10丁目20-3

Tel: 0155-20-2600 Mail: [hello@nupka.jp](mailto:hello@nupka.jp)

Web: [www.nupka.jp](http://www.nupka.jp)

32